

# 脚本 正義の教師

[http://unohirotest.mydns  
.jp/hiroshi/cgi/top.pl](http://unohirotest.mydns.jp/hiroshi/cgi/top.pl)

karasuno10

教師

正義の教師

烏野  
博史

人物

あずましんすけ

東伸助 (35) 松本学園・生活指導教師

みなみえつこ

南悦子 (22) その同僚

きたむらじろう

北村豪 (40) やくざ

きたむらじょう

北村条 (17) 不良生徒、豪の息子

かどまつはじめ

門松一 (52) 松本学園・校長

にしけいこ

西蛭子 (17) 同・学生・新聞部

わたりたくろう

渡卓郎 (27) 東の同僚

ひこねえいいち

彦根栄一 (25) 東の同僚

警官 A (30)

生徒達

あずましんすけ

東伸助は弱者に強く、強者に弱い。東は権力や金に弱く、見栄っ張りである。松本学園に就職した東は、その強面から生活指導教員が適任とされる。東は学園で起こる大抵の問題に対して気付かぬふりをしてすごす。多くの生徒が厳しい上、不公平な東を煙たがった。

みなみえつこ

南悦子は珍しく東に好意的な生徒であった。

悦子は正義感が強く、問題に巻き込まれやすかった。悦子は悦子の問題を解決に導いた東をヒーロー視する。東は悦子が卒業するまで、悦子の前では良い教師であり続けた。東は教員として戻ってきた悦子と再会する。悦子は盲目的に東が正義の教師であると信じている。大抵の圧力に屈する東を悦子は諦めず、今日も東は見栄を張る事になる。

今回、東は北村条の服装指導をすると、条の父親でヤクザの北村豪が怒り狂う。東は騒動を嫌う校長とヤクザの圧力に屈した。"今後、北村条の服装の指導はしない"という結論を得て、東と校長と北村親子との面談は終わる。

① 松本学園・職員室（夕）

みなみえつこ

南悦子（22）と渡卓郎（27）と彦根栄

わたりたくろう

一（25）、自席に座っている。彦根の

席には竹刀が立てかけられている。

悦子、校長室の扉を見つめている。

あずましんすけ

校長室の扉から東伸助（35）と門松一

かどまつはじめ

（52）が出てくる。

悦子、東にかけよる。

悦子「どうでした!? 条君のお父さん、わか

つてくれましたか!？」

東、びくりとして悦子を見る。

東と門松、顔を見合わせる。

門松「今後、本校としては北村条君の容姿に

関して、指導しない事にしました」

渡と彦根、門松を見る。

門松「これは生活指導の東先生とも話し合っ

て決めた事です」

東「ええ、はい。私としましても、他の生徒

に迷惑がかからないのなら、条君の個性を

尊重してあげようと。ねえ、校長先生」

門松、大きく頷く。

悦子、ぽかんと口を開ける。

悦子「な、何ですか？ あんなに熱心に」

東、悦子から視線をそらす。

東「別に悪い事をしてる訳じゃ——」

悦子「先生に見放されて、条君が不良になつたらどうするんですか!？」

門松、東と悦子の間に割って入る。

門松「まあまあ。東先生は、北村君のお父さんを送らないといけません。積もる話はあるでしょうが、南先生」

悦子「でも——」

悦子、心配そうに、東を見る。

門松、東をにらみつける。

東、俯き頭をかく。

東「南先生。これが一番良いんですよ。ヤクザともめて……警察沙汰になれば、教育委員会も黙ってないでしょう」

悦子、愕然として、立ち尽くす。

東、会釈して、廊下へのドアに歩いて

いく。東、渡の座席を通りかかる。

渡、東を見ている。

東「何だ？ 悪いか？」

東、渡をにらみつける。

渡「いいえ、合理的です」

渡、机の上の答案用紙の採点する。

彦根「東先生。預かっていた竹刀です」

彦根、竹刀を東に差し出す。

東「それは後で……置いといて下さい」

東、廊下へ出て行く。

壁の掛け時計。渡が答案をつける音。

渡、彦根は自席に座っている。

校長室の前で、立ち尽くしている悦子。

悦子、踵を返し、彦根の席の竹刀を持

って、廊下に駆け出る。

彦根「ちよつと、南先生!？」

彦根、廊下へ出て行く。

渡、机の上の電話の受話器を手にとり、

番号を押す。呼び出し音。

渡「もしもし——」

渡、天井を見上げる。

②同・玄関・前（夕）

玄関から校門にかけての道には生徒達がたくさんいる。東と北村豪（40）と北村条（17）、並んで歩いている。条の髪型は茶髪リーゼントで、耳にはピアスをつけ、改造制服を着ている。生徒達は怪訝な表情で豪を見ている。

豪、蟹股歩きで、闊歩する。

豪「邪魔じゃ、邪魔！ どけい！」

東、ヘコヘコとして、手をもむ。

東「お前達、早く帰りなさい！」

条、東を見て、地面に唾を吐き捨てる。

条「（小声で）ダッサ」

東、条をにらみつける。

豪「先生どないした？」

東「あ、いえ……」

東、豪に愛想笑いを浮かべる。

悦子の声「東先生！」



悦子、玄関から駆け出てくる。悦子の背後、玄関の靴箱の陰に立つ彦根。息をつく悦子の手には竹刀。

東と豪と条、ふりかえる。

東「南先生？」

悦子「先生！ 私は信じてます!! 先生がヤクザの暴力なんか屈しない事を!!」

生徒達、東と豪と条を見る。

条「見てんじゃねえよ！」

豪「先生。姉ちゃんにわからせたってや」

東、小刻みに頷く。

悦子「確かに！ 先生の言うとおり、学校側としても、モメない事が賢い方法なのかもしれない！」

生徒達、どよめく。

東「み、南先生、やめてください！」

悦子「いいえ、やめません！ 確かに警察沙汰になって教育委員会に悪い意味で注目を集めるのは学校として、良くないかもしれませんが！」

東「南先生！ 生徒が見ています！」

生徒達、騒然とする。

東、慌てて悦子に歩み寄り、両手の平を悦子に向ける。

悦子「条君の事を考えてあげて下さい！」

条、怪訝な顔をする。

悦子「条君がこのまま、ろくでもない大人になつたらどうするんですか！」

条「何だとセンコウ！」

悦子、東に向かって、竹刀を掲げる。

悦子「思い出して下さい！ 私は、ずっと、

先生が正義の人だと信じています！」

東、固唾を呑む。

生徒達はどんどん集まってくる。

新聞部の腕章をつけ、カメラを首にかけた西蛭子にしじいこ（17）が歩いて来て、生徒達の人だかりに気付く。

蛭子、生徒達をかきわけて最前列に出て来る。

東をはさみ、豪と条に向き合う悦子が、

東に竹刀を差し出し出している。

東、目を見開いたまま、俯いている。

悦子、眉をひそめる。

条、東を見て、汚いものを吐き捨てる  
かのように鼻で笑う。

豪、東を押しつけて、悦子の前に立ち  
はだかる。

豪「姉ちゃん。随分好き放題言うてくれたや  
ないか」

豪、悦子に顔を寄せ、にらみつける。

悦子「何ですか!? 脅しには屈しませんよ!」

豪「いてこましたるかあ!!!」

悦子「(悲鳴)」

悦子、竹刀を落とす。

東の足元に落ちる竹刀。

東、じっと地面を凝視している。

生徒の声「(ヒソヒソ)何だよ。東の奴、普

段偉そうなのに、ヤクザには逆らえないの」

生徒の声「(ヒソヒソ)いい気味」

悦子の声「何ですか。ぼ、暴力いけませんよ」

豪の声「ええ加減にせえや。上でカタついてるのに今さら出てきてガタガタ抜かすな！」

地面の上の竹刀。

条、人差し指の先を頭に向けて回す。

条「お前、東なんか信用してんの？ 馬鹿じやね」

悦子「（涙声）当たり前です！ 東先生は学生時代の私のヒーローなんですから！」

東「いちいち、うるさいんだよ。お前は！」

豪と条と悦子、東を見る。

蛭子と生徒達、東を見る。

東、床の上の竹刀を拾い、竹刀で地面を叩く。

東「俺の生徒に手を出してんじやねえ!!」

豪、東をニラみつける。

豪「あつ？」

東「や、や、や、やれるものならやってみやがれ！」

豪、東をなぐる。シャッター音。

生徒達の間で悲鳴が広がる。

東、条の足元に倒れる。

豪、東の前でしゃがみこむ。

豪「先生、ワシになぐりかかって来るのはあかんわ。正当防衛や」

シャッター音。シャッター音。フラッ

シュの光。豪、光の方向を見る。

蛍子がカメラを構えている。

蛍子「あ、やばっ!!」

豪「このクソガキ！」

東、豪の足をつかむ。

東「俺の生徒に手を出すな……」

条、東を見て、目を見開く。

豪「お前みたいな小物が一番うっとおしいんじゃ!!」

豪、東を蹴飛ばそうとする。

パトカーが構内に入り入れる。

東と悦子と豪と条、ライトに照るし出

され啞然とする。

パトカーから警官A（30）が出てくる。

警官A「警察だ。これはいったいどういう事

だ。事情を知る者は教えてくれ」

蛍子「はい。私ぜんぶ見てました。証拠あります」

蛍子、手をあげる。

③ 同・校門・前

パトカーが校門から出発する。

④ 同・玄関・前

呆然とする東と悦子。

東「これはいつたい」

校舎方向から渡が歩いてくる。

渡「ああ私です。ヤクザの親御さんが乗り込んできたので年のため、来てくれないかと、連絡をいれておきました。迷惑でしたか？」

東「いや……」

悦子、東を見る。

悦子「先生、大丈夫ですか」

東「大丈夫なわけないだろ」

東、ほほえみ、その場にへたり込む。

著者HP：[鳥野の箱庭](#)

